



NIPPON BEARING

1月28日付 日本経済新聞広告 解答と解説

【問題】 2025年までの在宅消費の伸び率が一番高いものは？

- ① 金融サービス ② 健康 ③ 消費財

【答え】 ① 金融サービス

【解説】

コロナウイルスの世界的な大流行により、私たちの暮らしや行動は大きく変化しました。外出を控えて自宅に籠る日が増えたことで、自宅にいながら買い物をしたり、友人とリモートでつながったり、オンラインで授業を受けたり、いわゆる「在宅消費」が日常となりました。

アジア太平洋地域における「在宅消費」は、コロナ禍前の2019年の1.2兆米ドルに対して、2025年には3兆米ドルまで増加すると見込まれています。

中でも、伸び率が高いものは、金融サービスの52%、次いで健康の23%、消費財の17%となっています。消費規模では、消費財の2.3兆米ドルが最大規模、次いでレジャー・レクリエーションの2,990億米ドル、教育の1,920億米ドルが上位を占めています。金融サービスは200億米ドルです。

※出典元：デロイト トーマツ《非接触経済の台頭》より

金融サービスの在宅消費が、まだ規模が少ないながらも伸び率が高いことは、私たちの行動変容を表しているようで興味深いですね。キャッシュレス決済が増え、現金が手元に無くても困らなくなったことも、金融機関に出向かずに在宅消費を利用する要因の1つかもしれません。

私たち人類は困難に直面するたび、それまで不可能だったことを可能にしてきました。今後、どのような在宅消費が登場するのか、新しいサービスを利用できる日が楽しみですね。

【企画・協力：榊学研メソッド】